

渡辺 義介 小伝

Gisuke Watanabe



渡辺義介氏は、明治21年（1888年）4月新潟県に出生、柏崎中学、第四高等学校を経て大正2年7月東京帝国大学法科大学経済学科を卒業して直ちに農商務省に勤務、鉱山局製鉄課長、製鉄所販売部長、総務部長等を歴任した。

昭和9年製鉄大合同が実現して日本製鉄株式会社が設立されると、取締役選ばれ、八幡製鉄所長となった。在職時の昭和12年2月には、洞岡にわが国最初の1,000トン高炉が完成した。翌13年には鉄鋼統制協議会が設けられ、鉄鋼業界もいよいよ準戦時体制に入ったが、昭和16年太平洋戦争が起こると、日鉄調査団長として北支（中国北部）に出張、後、北支那製鉄会社が設立されてその社長に就任した。翌18年北支那製鉄社長を辞任して鉄鋼統制会理事長に就任した。当時戦況は振るわず、鉄鋼業界も各所に障害が続出したが、よくこれを処理して統制会理事長の任務を全うした。

昭和20年には日鉄社長、統制会会長に就任した。原料の途絶、空襲による被害等のため日鉄各作業所が操業困難に陥り、これに対処するため苦心した。20年8月に終戦となり、翌21年8月公職追放を受ける以前に社長を辞任、一切の公職から身を退かれた。

昭和27年5月に至り、三鬼八幡製鉄社長の飛行機事故による不慮の訃の後を受けて、再び八幡製鉄社長に就任、また日本鉄鋼連盟の会長に選ばれた。この時朝鮮動乱ブームの反動が訪れ、製鉄原料とりわけ鉄鉱石の長期見通しをつける必要を痛感し、製鉄原料委員会を設立して外地原料の確保に苦心した。その後日本鉄鋼輸出組合の設立、スクラップカルテルの結成など業界の結束に努めた。また光製鉄所建設の方針を決定、連続亜鉛メッキ設備、アームコとの技術提携による珪素鋼板工場、洞岡焼結工場がそれぞれ作業を開始、合理化の実がようやく上がった。29年にはデフレ政策による財政支出の圧縮および金融引締めにより業界は極度の不況に陥ったので、その対策に非常な苦心を払った。

日本鉄鋼協会に関しては、昭和6年以来引続き評議員としてその発展のため尽力され、昭和30年4月には名誉会員に推挙された。

昭和31年1月氏は狭心症により急逝された。

同氏逝去の後、八幡製鉄会社では、氏が生前鉄鋼技術の研究に深い関心を払われたことを考慮し、金1,000万円を記念資金として日本鉄鋼協会に寄贈した。本会は八幡製鉄渡辺記念資金を設定し、その資金の利子をもって、わが国鉄鋼業の進歩発達に貢献した者に渡辺義介賞および渡辺義介記念賞を贈る等の事業の費用に充てることにし、今日に至っている。